

団体名:伊平屋村

財務状況把握の結果概要(ポイント)

総合評価

債務償還能力

⇒ 問題なし

〔地方債等の債務の大きさと、その償還原資を確保する能力〕

○ストック面(債務の水準)

実質債務月収倍率(①)が低いため、ストック面においては問題ない。

○フロー面(償還原資の獲得状況)

行政経常収支率(③)が10.0%を上回り、債務償還可能年数が15.0年未満であることからフロー面において問題はない。

資金繰り状況

⇒ 問題なし

〔経常的な収支と積立金等の備えからの資金余裕状況〕

○ストック面(資金繰り余力の水準)

積立金等月収倍率(④)が高いため、ストック面において問題はない。

○フロー面(経常的な資金繰りの余裕度)

行政経常収支率(③)が、10.0%を上回っているため、フロー面においては問題ない。

財務指標

(平成27年度決算)

	①実質債務月収倍率 〔 $\frac{\text{実質債務}}{\text{行政経常収入} \div 12}$ 〕	②債務償還可能年数 〔 $\frac{\text{実質債務}}{\text{行政経常収支}}$ 〕		③行政経常収支率 〔 $\frac{\text{行政経常収支}}{\text{行政経常収入}}$ 〕	④積立金等月収倍率 〔 $\frac{\text{積立金等}}{\text{行政経常収入} \div 12}$ 〕
注意			問題なし	12.1%	3.5月
やや注意	24.0月		やや注意	10.0%	3.0月
問題なし	10.1月	6.9年	注意	0.0%	1.0月

今後の見通しと留意点

(今後の見通し)

- ・ストック面については、地方債現在高の増加が積立金等残高の増加を上回る見通しである。
- ・フロー面については、行政経常収入は減少する見通しであり、行政経常収支については、増加する見込みである。

(留意点)

- ・他団体との比較による財政上の特徴を把握し財政健全化に資することが望まれる。